



グアム補習授業校 PTA 発行
 2022年3月(第94号)
 Tel: 671-734-8024/25
 170 Terao St.
 Mangilao, Guam 96913

二〇二一年度卒業生に向けて

出る杭となつて

グアム補習授業校 校長 佐藤 康隆

補習授業校のすべての児童生徒の皆さん、一年間、頑張りましたね。

COVID-19の感染が収まらない中、グアム補習授業校が成長し続けているのは、伝統を築き守ろうと頑張っている皆さんのおかげです。

校長先生自身のことをどんな人なのか知らない人も、何となくのイメージしかない人もいるでしょう。ただ、皆さんの成長過程の大切な節目にあたって、偶然にも出逢えたという奇跡を大切に(まさに「一期一会」ですね)いつも私が皆さんに伝えていた言葉をもっと詳しく伝えます。

『出る杭を打つ』

という諺がありますね。何か新しいことや人と違ったこと、目立ったことを行おうとすると周りからの抵抗でなか

なかいを貫き通して、実行することが困難であるという喩えです。皆さんもそんな経験をしたこと、ありませんか。私は、教師になってからそんな場面をたくさん見てきました。時に頑張ろうとして周りからの抵抗で悔しい思いをしている子供たちを見ることもありました。そんなことから、私は、教員としての自分自身の座右の銘を

『出る杭を伸ばす』

と言いつけて指導を行ってきました。何か人と違うことをやろう、新しいことに挑戦しよう、勇気を出して取り組んでみよう、としている皆さんを見つけたらその出た杭を打って周りと同じようにするのでなく、その杭を伸ばして伸ばしてもっと意欲を出させたいと思っています。私自身もそんな思いで教師という仕事をしています。

これから成長する中で、たくさん打たれて凹まされることや前に進めなくなることを数多く経験することでしょう。しかし、諦めず勇気の出どころをしっかりと定めて良き指導者、良き友と出逢ってください。そして、自ら

今号の内容

- 卒業記念 校長先生の言葉…一頁
- 小六…二頁、中三…三頁
- 航空教室・紙ヒコキ教室…四―六頁
- PTA役員紹介及び今後の予定…七頁

も人の頑張り(出てきた杭)を応援して、伸ばしてあげてください。決して出る杭を打つばかりでなく……。今年度、PTAが再発足して様々な活動を再開することができました。この『かえん樹』もその一つです。学校が保護者とともに今後もますます成長していくためにも、出る杭の精神を共有していければと思います。保護者の皆様、一年間ありがとうございました。



PTA広報誌かえん樹とは

復活第二号

補習授業校 PTA 会長 武石 大吾

グアム日本人学校補習授業校の父母会が発展しPTAとして活動を始めたのは今から三十六年前の一九八六年です。そしてPTA広報紙を始めて発行したのは一九八七年六月五日、当時はまだ広報誌に名前がついていませんでした。記念すべき第二号が同年十一月

二十三日発行、それが「かえん樹」でした。第二号の編集後記を引用しますと、『「かえん樹」とは「火焰樹」と書き、英語では「フレムツリー」というのだそうです。「火焰樹」が一斉に咲くと、まるで木々が燃えている様に見える、その美しさを昔南の島々にいた日本人は南洋桜と呼んでいました。グアムでは咲きほこっている「火焰樹」をあまり見ませんが、日本の桜のように名所のような処が来ると素晴らしいと思います。』とのこと。

グアム補習授業校のPTA活動はコロナ禍もあり、二〇一九年から二〇二一年七月までは一旦お休みをしておりましたが、昨年八月に活動を開始しました。年央からの活動でしたが、皆様のサポートもあり、十二月にはクリスマスイベントを実施することが出来ました。コロナの影響で、今年度のスポーツ大会は中止となってしまいました。日本航空殿のご協力もあり、お陰様で三月六日の午前中にボーイング七三七の見学を高学年に、そして午後には、紙ヒコキ教室を全学年対象に実施することが出来ました。

さて、今年のPTA活動はこれにて終了となりますが、来年二〇二三年五月二〇日、グアム補習授業校は創立五〇周年を迎えます。半世紀を迎える本校、皆様と本校の誕生日を一緒に祝い出来れば、幸いです。来年度もPTAへのご支援を頂きたく、宜しくお願致します。

小学6年生 卒業おめでとう！



左から、加藤鼓、北村空大、バトラー・タリーク、伊藤太洋、伊與田黎、安田光希、武石大亜、そして大久保先生

卒業生に聞きました

①補習校での一番の思い出、②日本語の好きな言葉、③将来の夢

伊藤 太洋

①運動会、②「こんにちは」、③車の運転をしたい

伊與田 黎

①大好きなスポーツ大会、②「黎明」、③虫を捕まえたり見たり触ったりしていたい

加藤 鼓

①休み時間に友達と鬼ごっこをしたこと、②「回転寿司の食べ放題」、③パイロット

武石 大亜

①休み時間、②「雲の上はいつも晴れ」、③世界を股にかけて仕事をする

北村 空大

①サイエンス教室、②「天才は1%のひらめきと99%の努力」、③科学者

バトラー タリーク

①運動会のリレー、②「勇気」、③ミリタリーに入ること

安田 光希

①クリスマス会のケーキ作り、②「希望」、③シェフ

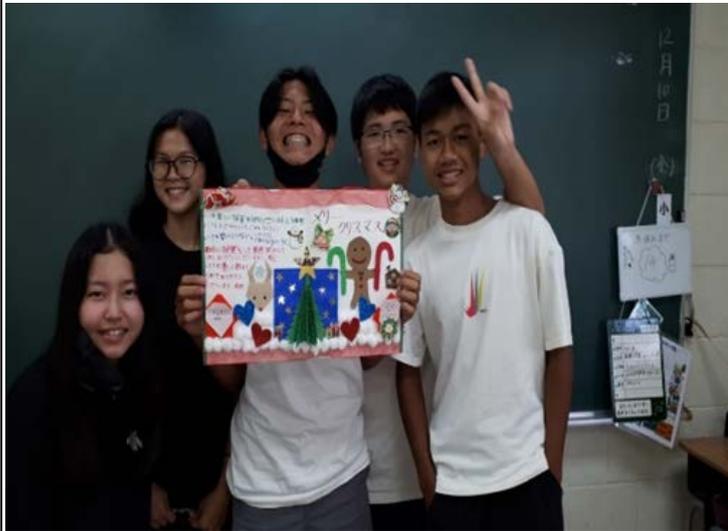


六年担任より

この学年はCOVID-19と共に五年生、六年生と二年間一緒に学び、私にとって特別な思いがあります。Zoom授業スタート時、私はまごまごし、生徒、保護者の方に教えられながらの初体験。感慨深い学年です。生徒たちの日記からは家庭の団樂のひと時を大事にし、家族の良さを楽しみ、親に守られていることが伝わって来ました。これからも笑顔で、胸を張って、明るい未来に向かって進みましょう。小学部御卒業、おめでとうございます。保護者の方々には寛恕の念を持って接して頂き感謝いたします。

担任 大久保恵子

卒業おめでとう！ 中学三年生



(左の写真左から：馬淵朱那、加藤眠、横田ニコラス、尾形聡、メイヤー陸)

卒業生に聞きました！ ①補習校での一番の思い出 ②日本語の好きな言葉 ③将来の夢

緒方 聡： ①修学旅行で京都に行ったこと ②涓滴岩を穿つ ③人の役に立つ仕事がしたい

加藤 眠： ①修学旅行でUSJに行ったこと ②失敗は成功のもと ③パフォーマー

馬淵 朱那： ①サイエンス教室 ②一生懸命 ③自分の好きなことをすること

メイヤー 陸： ①スポーツ大会のリレーで転んだこと ②努力 ③プロサッカー選手

横田 ニコラス： ①修学旅行 ②故郷 ③サッカー選手

中学部3年生の皆さんへ

担任 佐藤康隆

「勇気」というとどのようなことを思い浮かべますか。皆さんは、最近いつどんな場面で「勇気」をつかいましたか。授業中誰も手を挙げない時に「勇気」を出して発言した経験はありませんか。リーダーやキャプテンに「勇気」を出して立候補したことはありませんか。よくない誘いを「勇気」を出して断った経験はありませんか。

「勇気」の出どころが肝心なんだと思います。いつでもどんな時でも「勇気」を出せるものではありません。むしろ、「勇気」を出す経験をしない人は「勇気」を使うことはないでしょう。また「勇気」なんていないという人もいるでしょう。「勇気」を出す経験をすることによって、自らの能力をあらゆる方向に伸ばせると思います。その補佐役としてあなたの周りには、あなたを応援する大人がいるのです。だれかが、「勇気」をつかった時、それを見逃さずに支援してあげる人にもなってほしいと思います。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。「勇気を出して」 Be Happy!



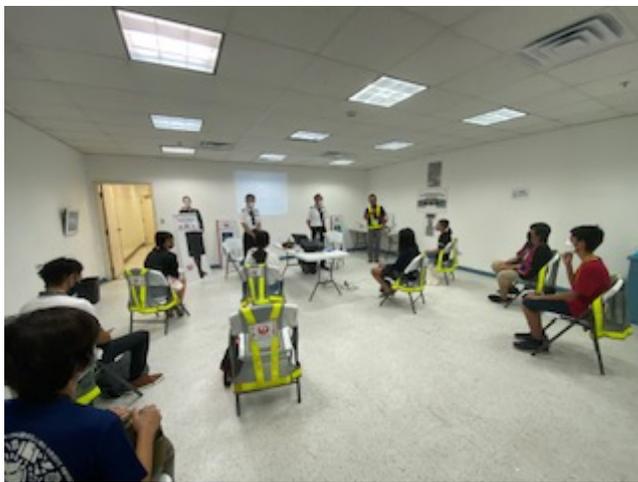
日本航空共催「航空教室」

令和四年三月六日(日)グアム国際空港において、日本航空によるボーイング七三七の実機見学会とパイロットによる航空教室が実施され、グアム補習授業校から高学年の中学二年生二名と小学六年生四名が参加した。

コロナの影響でスポーツ大会を始めとして、数多くの学校行事が中止になっている。かような状況下、日本人学校全日制では昨年航空教室を実施して頂いたこともあり、是非補習授業校でもと、PTAより働きかけを行った結果、学校と共催で課外授業として「航空教室」が実現した。ただし、空港内での安全上の理由により小学校五年生以上を対象とするよう日本航空より要請されたため、低学年を含め全学年及び日本語話の生徒も対象にした「JAL折り紙ヒコキ教室」も併せて同日午後に実施頂くこととなった。



幸い当日は天気にも恵まれ、空港に集合し、玉崎支店長の開会の挨拶から同イベントは開始された。支店長の説明によればグアムでのパイロットの養成訓練は二〇一三年から始められており、毎年B七三七は年間六〜七回、B七六七では年間二回行われているとのこと。日本航空のスタッフの自己紹介の後、参加者全員に搭乗券と空港の制限地域に入るための通行証が手渡され、実際に空港の中の制限区域(普通入ることが出来ない手荷物仕分け場から空港エプロンを経由して滑走路側の事務所)に入り、まずは座学の航空教室を一時間程行った。



座学の講師は、B七三七パイロットの古田機長と福島機長。お二人は実際に前日まではパイロット訓練生の実機訓練を行っていたとのこと。翌日には

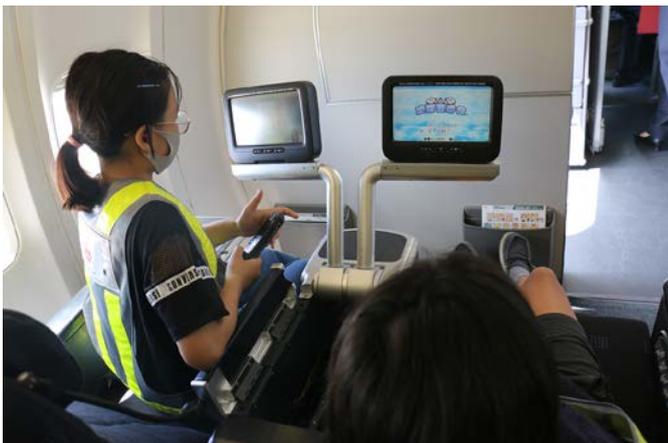
日本に帰国する予定のため、六フィートの十分なソーシャルディスタンスを取るよう日本航空より要請された。



パイロットのお二人からは、まずは同機のコックピットルーム内計器類の紹介、パイロットの仕事内容の紹介、実際に運航する際の準備、フライトバグの自身の紹介等の話があった。座学では生徒に対して、「離陸と着陸ではどちらの方が緊張するのか?」という質問が投げかけられた。生徒からは「降りる方が怖いので、着陸。」との答えもあったが、正解は離陸。なぜならば、着陸はやり直しが利くが、離陸は一回勝負だからとのこと。参加者からは他にもいろいろ質問があり、「たくさんある計器の中で一番よく触るのはどの機器か?」との質問

に対しては、「通常運航ではオートパイロット機能を使用する機会が多いが、その中での微調整の計器三つ、推力、左右の方向、上下の方向が一番触ると思います。」との回答があった。

座学後に実機の見学となり、停留している二十番スポットまで徒歩で移動した。移動途中ではユナイテッド社の同型機を数多くみることが出来た。特にユナイテッドの成田行きの使用機材に、実際に機内食を積み込んでいる様子を見ることが出来た。十分ほどの徒歩移動で実機との対面。整備士の方が同機の外部の説明を行い、実際に飛行機の頭の部分や、ジェットエンジンのブレードなどをみんなに見せてくれた。機体後部では、エアコンや照明を含めた電源を使用するため、補助動力装置が実際に稼働しており、飛行機の後方では動力音が大きく、会話が出来なかった。その後、タラップを上り、実際に機内へと移動し、ギャレーを見たり、通常キャビンアテンダントが座るアテンダントシートに着席したり、ビジネスクラスの席でリクライニングにして座り、テレビを見たり。また、二人ずつコックピットルームの操縦席に着席させてもらったりした。小六の加藤鼓さんは「コックピットの狭さにびっくり。実際に座るときに頭を上の方の計器にぶつけてしまった。」と。



その後機内では、搭乗券に記された席に皆が着席し、ここからクイズ大会が催され、三択の問題が十問ほど出された。ちなみにその問題は、①JALが就航している国と地域は全部でいくつ？②グアムに就航して何年？③エンジンのブレードは全部で何枚？④B七三七の重量はどのくらい？など（答えは最後に）。上位三人まで賞品が贈られるとのこと、最終的に一位は七間正解の武石大亜さん（小六）、二位は北村空大さん（小六）、三位は伊與田黎さん（小六）と加藤鼓さん（小六）が五問で同じ正解数であったが、機長とじゃんけんを行い、伊與田さんに賞品を授与された。

その後、徒歩にてチェックインカウンターに移動し、最後にグアム補習授業校の児童・生徒から感謝の挨拶を述べて、本イベントは正午少しすぎに終了となった。

日本航空グアム支店及びパイロットの皆様、お忙しい中、貴重な体験をさせて頂きありがとうございます。



問題の答え…①外国は六十の国と地域、ちなみに日本国内は百二十七か所、②五十二年、③二十四枚（これは参加者皆さん実際に触っていた上に、ブレードには番号が振ってあり全員正解）、④最大離陸重量七十九トン。



オンライン 空育®JAL 折り紙ヒコーキ教室

日本航空さんによる折り紙ヒコーキ教室が、3月6日(日) オンラインにて行われました。プログラム内では、折り紙を折るだけでなく、空港で働くいろいろな車の紹介やトリビアクイズ、折り紙飛行機がよく飛ぶ折り方や飛ばし方のレクチャーもしていただきました。みんなで一緒に紙飛行機を飛ばした時は「わあー！」と歓声が上がりました。



いかヒコーキ

今回作成したのはイカの頭のような形をした折り紙ヒコーキ。遠くまで飛ぶのが特徴だそうです。

～参加者の声～

- いつもと違う飛行機が作れて楽しかった。
- 遠くまで飛んでいくので面白かった。
- 学校のみんとシェアしたい。





二〇二二年度補習授業校 P T A 役員

PTA 四役
 会長（小六） 武石 大吾
 副会長（中二） 金森 史香
 書記（小四） 岡崎 園子
 会計（中一） 清水 実知子

クラス役員

プリ バジャー 千秋
 小一 高瀬 知恵
 小二 ライト 寛子
 小三 ハレハレ 美恵
 小五 天満 由美子
 中三 加藤 茜

※クリスマスイベントの時の集合写真です。
 四役の皆様、クラス役員の皆様、一年間お疲れ様でした。

グアム補習授業校 令和4年3月・4月の予定

3月	12日(土)	第4回PTA役員会議 (1430-) プリ今年度最後の授業
	19日(土)	修了式 (0845-0900) 登校時間：午前8時35分まで 第46回卒業式 (0945-1120) ★下校予定時刻は11時半ごろ ※全児童生徒午前中のみ (プリはお休み)
3月20日(日)～4月8日(金) 春季休業		
4月	9日(土)	始業式 (0845-0900) 新2,3,4,5,6,中2,3年登校時間：8時40分まで 入学式 (0930-1000) 新小1及び新中1は9時15分から受付 ※全児童生徒午前中のみ (プリはお休み) ★下校予定時刻は11時ごろ
	16日(土)	通常授業開始 PTA総会 (1230-1330)
	23日(土)	学習参観・学級懇談

編集後記

PTA再発足にご協力くださり、ありがとうございました。今後も補習授業校PTAが益々盛り上がりつついくことを願っています。(岡崎)

かえん樹二号の制作ではページ数確保が大きな課題でした。今年のスポーツ大会ほど、開催の有無に関心を持った事はありません。完成に一安心です。武石さん、上手く纏めてくださり有難うございました。(天満)

中三のページは保護者の皆さんの協力と校長先生のメッセージのおかげで、子ども達の良い思い出になる素敵な誌面になりました。ありがとうございました。(加藤)

折り紙ヒコーキですが、簡単な折り方で本当に遠くまで飛んでいくので、今回参加できなかった生徒のみんなにも是非試して欲しいと思いました。(高瀬)

やはり日本の新聞と言えば、縦書き。ということで少しこだわって縦書き原稿用紙を作ってみました。画像等いろいろ調整が大変でした。如何でしょうか皆様、ご協力頂き、ありがとうございました。(武石)



かえん樹九十四号如何でしたでしょうか？ご意見、コメント、寄稿希望等、是非 guamhoshupta@gmail.com にお寄せください。